

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
630/63C	12-110	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Alcohol consumption and PSA-detected prostate cancer risk--a case-control nested in the ProtecT study.</p> <p>飲酒と PSA により発見された前立腺癌リスクの関連--ネステッド・ケース・コントロール研究</p>		
<b>執筆者</b>		
Zuccolo L, Lewis SJ, Donovan JL, et al.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Cancer. 2013 May 1;132(9):2176-85		
<b>キーワード</b>		
アルコール、前立腺癌、前立腺特異抗原、ProtecT 研究、ネステッド・ケース・コントロール研究		
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b></p> <p>アルコールは確立された発癌物質であり、最近の前向き研究のいくつかが大量飲酒により前立腺癌リスクが増加することを示しているが、飲酒が前立腺癌の危険因子であるかについてはまだ確率していない。本研究の目的は飲酒の前立腺特異抗原 (PSA) 値および前立腺癌リスクに対する役割を検討することにある。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>2,400 人の PSA によって発見された前立腺癌患者と 12,700 人の年齢と開業主治医を一致させた対照群をネステッド・ケース・コントロール法にて PSA 検査期にある英国大規模前立腺癌治療法の無作為割当試験 (ProtecT 研究) 対象患者から抽出した。線形および多項ロジスティック解析を用いて 1 週飲酒量、飲酒様式と幾何平均 PSA 変化量と前立腺癌のステージ・重症度別リスク比、およびその 95%信頼区間の関係を求めた。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>週に 10 飲酒単位増えると PSA 値が低くなり (幾何平値均 0.98, 95%信頼区間(CI): 0.98-0.99)、低悪性度前立腺癌の発症リスク比は低下したが (相対リスク比 0.96; 95%CI 0.93-0.99)、高悪性度前立腺癌の発症リスク比は増加した (相対リスク比 1.04; 95%CI 0.99-1.08; P=0.004)。これらは BMI、血圧、合併症や因果逆転からは説明出来なかった。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>本研究は飲酒量が増えると PSA 値が低下し、前立腺癌検出に影響を与える可能性があるという公衆衛生上重要な事実を発見した初めての大規模研究である。さらに大量飲酒者は高悪性度前立腺癌の発症リスク比がやや増加することも発見したが、飲酒と低悪性度前立腺癌の発症リスク比の関連については他の研究、とくに多様な症例が含まれたコホート研究での追試による確認を要する。</p>		